

Tersely S 125i 150i

SCOOTER

本取扱説明書を車両に携帯して下さい。

車両をご使用になる前に本取扱説明書をよくお読みください。

取扱説明書



© 2018 KYMCO. すべての権利を保留します。中国印刷製造。www.kymco.com

バージョン:T300-TF25AA-A1
2018年8月に編集完了



オーナーの皆さまへ：

KYMCO スクーターをお買い上げいただきありがとうございます。

本取扱説明書に記載する各項目をお読みください。

安全に留意し快適なスクーターライフをお楽しみください。

ご使用いただく間の定期点検及び定期メンテナンスは安全運転の基本条件です。

メンテナンスは**KYMCO**販売店へ相談し点検と修理を行ってください。

スクーターに対して改造は操縦性を悪化させ本製品の寿命を縮めることがありますので、安全運転に影響を与えます。

本マニュアルの内容と実車との間に相違がある場合、実車の形式を基準とします。

運転する前に

本取扱説明書はお買い上げいただいた本製品について、正しい使いたか、安全の運転、簡単な点検方法などについて、詳しくご説明したものです。

より気持ちよく、より安全のために、本取扱説明書を真面目にお読みください。

またKYMCO販売店にて次の説明も受けてください。

- 1、本車両について、正しい使い方。
- 2、本車両を移転する前に、点検とメンテナンスについて。
- 3、本取扱説明書の内容と実車と違うところがあれば、実車を基準とします。

備考：

ご購入いただいた車両が最高の性能を発揮するために、必ず、定期的点検を実施してください。走行距離が300kmに達せば、初回点検をお受けください。それから、2000kmごとに、定期点検を行ってください。

目次

安全運転のために.....	1	ステアリングの点検.....	32
各部の名称.....	4	ブレーキの点検と調整.....	33
各部の操作.....	6	ブレーキ液の点検.....	34
ABS アンチロック・ブレーキ・システム.....	10	ウインカーライトの点検.....	36
USB 充電ポート.....	12	前後緩衝器の点検.....	36
メインスイッチのカバー.....	13	タイヤの点検.....	37
メインスイッチ.....	14	ホーン、バックミラー角度.....	38
シートロック.....	15	定期メンテナンス表.....	39
ヘルメットのフック.....	16	オイルの交換.....	40
起動ボタン.....	17	オイル交換の注意事項.....	41
ライトスイッチ.....	18	ギヤ油の交換.....	42
ホーンスイッチ、ウインカーライトスイッチ.....	19	点火プラグの点検.....	43
ステアリングロック.....	20	エアフィルターの清掃と交換.....	44
エンジンの起動.....	21	ヒューズの交換.....	46
正しい運転について.....	23	バッテリーの点検.....	48
駐車の方法.....	28	故障した場合.....	50
運転前の点検.....	30	諸元表.....	51
オイルの点検と補充.....	30	備考：仮に、本取扱説明書の内容と実車と違うところがあれば、実車を基準とします。	
ガソリンの点検と補充.....	31		

安全運転のために

快適のお気持ちと心地良い服装を着用するのは安全運転の要領です。

- ① ヘルメットを着用し、必ずあごひもをしっかりと締めてください。
- ② 袖口をしっかり締め、整然とする服装をしてください。袖口がブレーキレバーにかからないようにご注意ください。
- ③ 安全のために、運転中は必ず両手でハンドルを握ってください。片手では危ないので、注意してください。
- ④ 底がフラットなシューズはより安全です。

※注意

- スクーターに乗車する時に、安全の運転操作に邪魔がなく、適切な服装にしてください。
- 運転中、また運転中止した後30分間くらいは排気管の温度は非常に高いので、やけどをしないように、ご注意ください。
- 万が一のため、スクーターを使わない時、乾草や燃えやすい物の遠い場所に保管してください。



スクーターの使い方

1. リラックスした状態で自由に操作できます。
2. 二輪車の操作安全性について、乗車者の座り位置によって決まりますので、常に、車両のシートのセンター部に座ってください。仮に、乗車者がシートの後半部に座れば、前輪の負荷は軽減して、ハンドルが揺れ動き、危険な状態が発生しやすいです。
3. 車が角を曲がる時、体はかすかに内側に傾けると比較的曲がりやすいのです。車両と体と内側に向ってやや傾かないと、運転は比較的不安定になります。
4. 舗装が壊れ小石がある路面の場合、行走はより不安定です凸凹の路上で走場合、まず状況を十分に確認し速度を遅くし、ロースピードで運転してください。手首や、肩をリラックスして、ハンドルをしっかり掴んでください。



積載物

1スクーターに物を載せるのに従い、ハンドルを掴む感覚も変わりますので、ご注意ください。積載物の重量が規定を超えると、ハンドルが揺れやすくなります。超荷重で運転しないでください。
2.排気管の温度が高いので、後同乗者は上、下車する時、やけどにご注意ください。

※注意

- 車体の構造が機能性に関わります、改造は操縦性を悪化させ車両の寿命を縮めることがあります。安全運転に影響を与えます。
- 改造は違法な行為です。保証権利を失います。
- スクーターシートの下（ラゲッジBOX下）で布類の保存は禁止です。エンジン燃料システムの不調の原因となり、エンジン運行も不順調になる恐れがあります。
- 火災を避けるため、車体のカバーとエンジンの間に何の布類も置かないでください。
- 指定の場所以外に物品を載せないでください。



- ①ラゲッジBOXの積載重量：10KG
 - ②後付け 荷物ラックの積載重量：5KG
 - ③内蔵のコンビニフック：3KG
- 備考：安全のために貴重物はBOX内に保存しないでください。

各部の名称

- ①メインスイッチ/シートロック
- ②スターターボタン
- ③ヘッドライト
- ④ウインカー
- ⑤メインスタンド
- ⑥エンジンオイル給油口
- ⑦排気管
- ⑧テールライト/ウインカー
- ⑨キャリア/ 荷物ラック
- ⑩車台番号位置



各部の名称

- ①フロントBOX
- ②ウインカー
- ③ガソリン給油口
- ④サイドスタンド
- ⑤エンジンの番号位置
- ⑥エアフィルター
- ⑦反射板
- ⑧前照灯Hi&Low切り替えスイッチ
ウインカースイッチ
パッシングスイッチ
- ⑨メーター
- ⑩バッテリー



各部の操作について

①スピードメーター：

運転中のスピードをkm/h（キロメートル/時間）あるいはMPH（マイル/時間）を単位で表示します。

②エンジンの回転数計:エンジンが一分間ごとの回転数を示し、数字×1000rpm。

③ウインカーランプ:ウインカーランプスイッチを操作によりますと、左折または右折を点滅で知らせます。

④積算距離計

a.走行した距離をキロメートル(km)とmile(マイル)の単位で示します。ADJキーで切り替えます。

b.三つのモード：総距離（ODO）、片道の距離（TRIP A/B）、オイルのメンテナンス距離（OIL TRIP）。

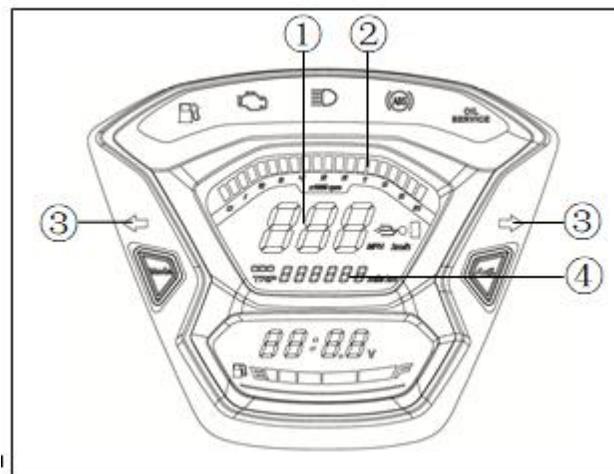
c.距離をリセットする設定

*MODEキーを押して、ODO→TRIP→OIL TRIP（ブランク）の順序で三つのモードに切り替えます。

*TRIPとオイルのメンテナンス距離モードにADJとMODEキーを押せば、リセットできます。

※注意

●距離単位をkm/mileに切り替えると、スピード計もkm/h、MPHに変わります。



⑤メンテナンス指示灯

a. 指示灯が点灯すると同時に、距離モードと数値が点滅します。車がメンテナンスをすることを提示します。

b. 車がメンテナンスを完了した後、距離計の数値をゼロに戻す必要があります。それとともに、メンテナンス指示灯が消灯します。

c. 距離計のリセット

*MODEキーを押して、ODO→TRIP→OIL TRIP→の順序に従い、三つのモードに切り替えます。

*OIL TRIPモードに、ADJとMODEキーを同時に押して、リセットでき、指示灯も消灯します。

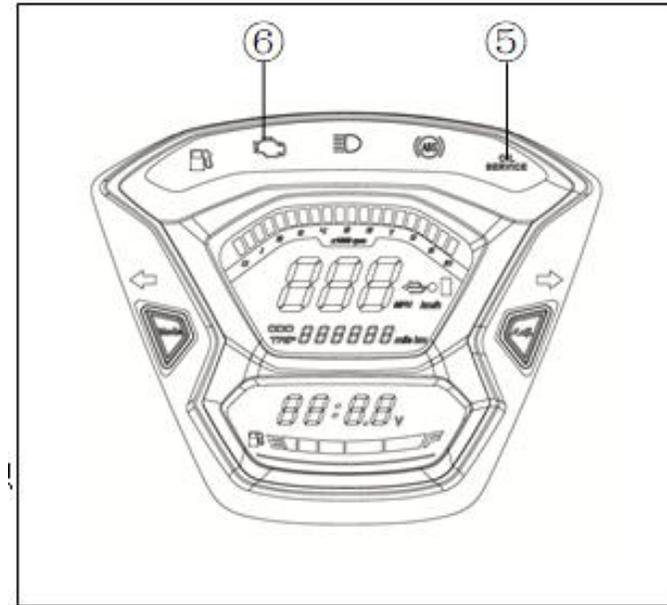
⑥エンジンの点検灯

メインスイッチをオンにすれば、ずっと点灯しますが、エンジンがスタートしたら、10秒間後に、自動的に消灯するとなると、車が正常です。メインスイッチをオンにした後、点灯しなければ、あるいはエンジンがスタートしてから10秒間後に点灯し続けますとなると、車が異常と判断できますので、KYMCO販売店へ行って点検と修理を行ってください。

※注意

●新車は走行距離が300キロメートル (km) に達してオイルを交換しますが、メンテナンス指示灯は点灯しません。規定距離で点灯するために、300km時オイル交換してから、メンテナンス距離をリセットしてください。

メンテナンス指示灯がそれに2000キロメートル (km) ごとに点灯します、オイル交換時期を提示します。



⑦燃料警告灯

警告灯が点灯したら、タンク内の油量は残りが少ないので、早めに無鉛ガソリンを補充してください。

⑧燃料計の表示

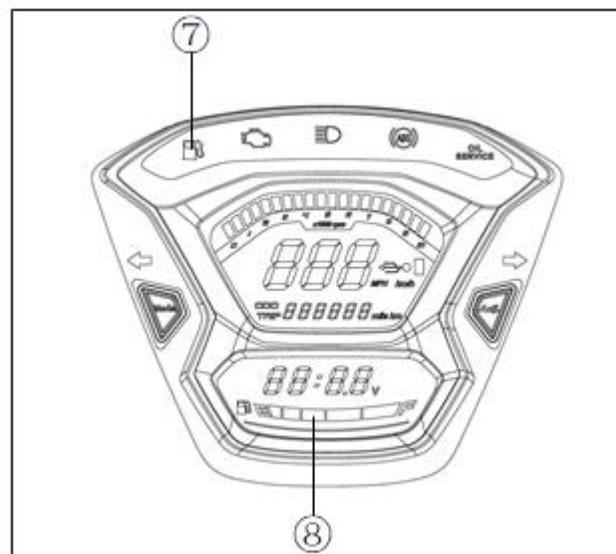
タンクに残るガソリンの容量を示すのです。表示がEに接して、最後の一角のレベルであれば、ガソリンの残量は約1.5Lです。早めに無鉛ガソリンを補充してください。

※注意

- 警告灯が点灯したら、燃料ポンプが空回りで破損しないように早めに無鉛ガソリンを補充してください。

時計の設定

- ①ADJキーを押し、メーターはODO（総距離）モードに切り替えます。
- ②このモードに、ADJ、MODEキーを同時に3秒間押し、調整状態に入ります。
- ③MODEキーを押し、メーターが時と分の数値に取り替えます。
- ④ADJキーを押し、数値を調整して、短く押せば、数値が1を増加し、長押しすれば数値が増加し続けます。



⑤仮に、10秒間内に、操作がなければ、自動的に時間設定モードが終わります。

短距離リセット設定

- ①ADJキーを押し、メーターがTRIR(短距離)モードに取り替えます
- ②本モードに、ADJ、MODEキーを共に押すと短距離の数値が自動的にゼロに戻ります。

⑨ メンテナンス距離表示 (ブランク)

a. オイルの交換時期を表示します。

b. 2000kmごとに、メンテナンス指示灯⑤がずっと点灯し、オイルメンテナンス距離指示信号⑨が点滅し、オイルの交換が必要とのことです。

交換してから、必ずリセットして、オイルのメンテナンス距離を正常的に累計できることを確保します。

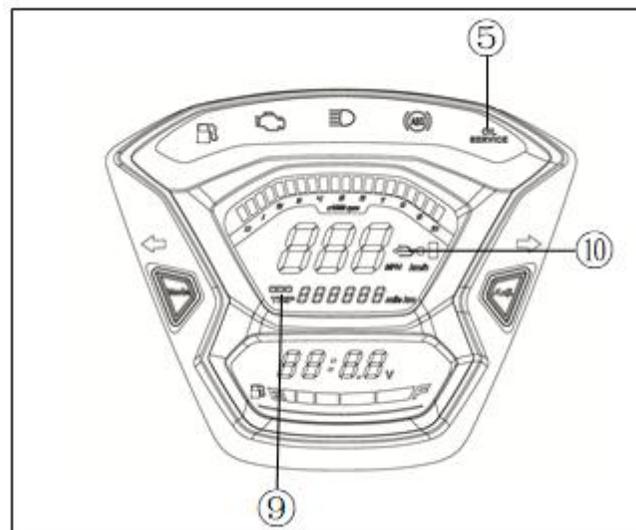
⑩ USB充電指示

スマートフォン接続して充電指示灯がすぐ点灯すると、充電が正常です。

充電指示灯が点灯しなければ、充電異常です。

充電指示灯が点滅すれば、電圧が低すぎるのです。

電圧が高すぎれば、充電電路が自動的に切れて、充電指示灯が点灯しません。



※注意

- 初めてのメンテナンスについて、300 km 走行後、オイルを交換してください。それから、1000 km ごとオイルを点検してください。2000 km ごとオイルを交換してください。

サイドスタンド

駐車用だけではなく、サイドスタンドは安全システム一つです。サイドスタンドが下向きの状態では、スクーターは起動できません。

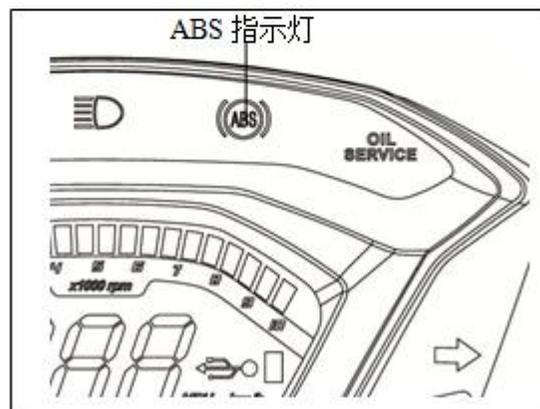
<サイドスタンドのオートオフシステムを点検します>

1. 平坦な場所にメインスタンドをかけてください。
2. サイドスタンドを上への位置に戻させ、エンジンを起動します。
3. サイドスタンドを出してオートオフシステムを点検します。

ABS アンチロック・ブレーキ・システム

ABS 指示灯：

1. ABS 指示灯はメーターの上右位置にある。(写真をご参考ください)。
2. 指示灯はメインスイッチがオンにした後に点灯しますが、オートオフできないのです。エンジンがスタートして、運転スピードが6km/hとなると、ABS指示灯は消灯します。
3. ABSシステムが異常となると、ABS指示灯が点灯します。この時、ABSアンチロック・ブレーキ・システムが機能を失うかもしれませんが、元のブレーキシステムは正常に動作しますので、慌て、ご心配しないでください。



ABSアンチロック・ブレーキ・システムのご説明：

1.路上によって、急ブレーキを掛けた場合、ABSアンチロック・ブレーキ・システムは急ブレーキでのタイヤロックを防止して、運転手がスムーズに、車の方向を制御することができます。ABSアンチロック・ブレーキ・システムはブレーキのパワーを自動的に控えて、タイヤの滑りを減少します。

2.ABSアンチロック・ブレーキ・システムは制動距離を短縮することではなく、柔らかく、平坦ではないし、下り坂の路上を走行する場合、ブレーキ距離はABSシステム無しの車よりも長いのです。ですから、より平坦的な路面で運転すれば、ABSシステムは最高の効果を発揮します。

3.ABSシステムはABS ECU及び前後車輪センサーを配置しております。メーカーの要求する規格タイヤをご使用しなければ、センサーに影響します。

ABSシステム異常動作の原因となるのです。



警告

規格サイズ以外のタイヤをご使用頂ければ、ABSアンチロック・ブレーキ・システムが正常に動作出来ない可能性があり、運転手がABSアンチロック・ブレーキ・システムの異常動作が起こる恐れがありますので、必ずやKYMCOが指定する規格サイズのタイヤをお使いください。



注意

ABSアンチロック・ブレーキ・システムが動作するとき、ブレーキレバーが少しの振動を感じることは正常です。運転スピードが6km/hより遅い場合、ABSシステムは動作しないのです。バッテリーが効かなく、あるいは故障があると、ABSアンチロック・ブレーキ・システムが動作しない場合もあります。この時、ABS故障指示灯が点灯します。

USB ポート

出力電圧: 5V DC

出力電流: 2A

ファンクション

- 1.USBポート一つはメーター右下①、もう一つのUSBポートはラゲッジBOX内にあります②。
- 2.USBポート蓋を開く。
- 3.USBコードを挿して、スマートフォンと接続します。

注意

1. 充電中の発熱現象は正常です。
2. エンジンをオフしても、メインキーがオンの状態に、充電されません。
3. バッテリー上がりを避ける為、エンジンスタートした後にUSB充電してください。
4. 超過充電防止の為、多数のスマートフォン充電禁止です。
5. USB充電ポートに対して、一切の改造は禁止です。
6. スマートフォン充電以外に使用できません。



メインスイッチカバー

盗難を防ぐために、駐車の際は、メインスイッチのカバーをロックしてください。

ロックする方法：

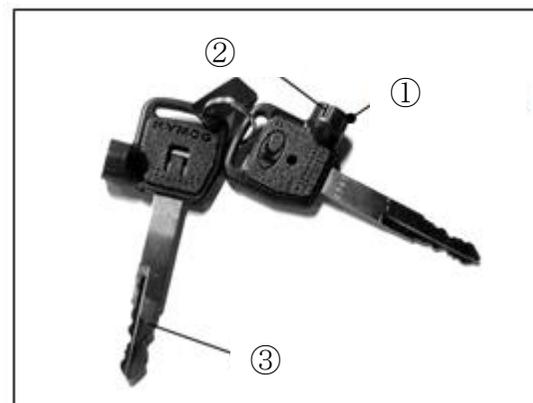
メインスイッチカバーのSHUTボタン（黄色）を押せば、メインスイッチカバーをロックできます。

解除方法：

メインスイッチカバー鍵の凹みをメインスイッチカバーの穴に合わせて挿して、右に回せば、すぐメインスイッチカバーが開きます。



メインスイッチロックカバーのボタン



①	メインスイッチロックカバー鍵
②	凹み
③	メインスイッチ鍵

※注意

- 盗難を予防するため駐車した後に、メインスイッチのカバーをロックしてください。

メインスイッチ

	この位置、ハンドルがロックして、鍵は抜けます。
	この位置、車両の電源はオフ、鍵は抜けます（エンジンがオフする）。
	この位置、車両の電源がすべて接続してしまい、鍵は抜けません（エンジンは起動できる）。
	キーを押せば作動する意味です。
	ラゲッジ BOX の OPEN 。 三つも状態でそれぞれラゲッジ BOX を開きます。 (1) エンジンがオフ時、開きます。 (2) エンジンが運転時、開きます。 (3) ハンドルをロックする時、開きます。



※注意

- 車両の走行中にメインスイッチを  位置に回さないでください。これが原因で事故が起こる場合があります。

シートロック

ラゲッジBOXへ物を入れたり、取り出したりとすることは、シートロックをオフする必要があります。

オフの方法：

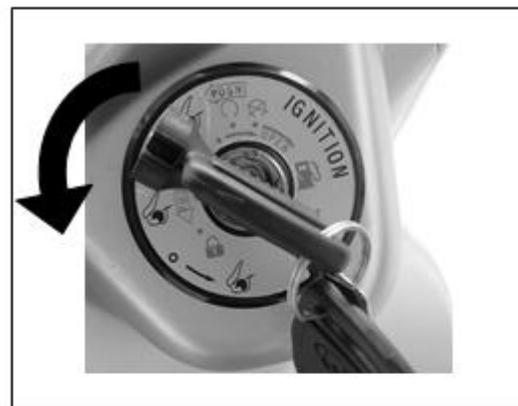
- 1.メインスイッチ「」位置に、鍵を反時計周りの方向へ回すとシートを開きます。
- 2.メインスイッチが「」位置に、鍵を中に押して反時計回り方向へ回してもシートを開けます。
- 3.ステリングハンドルを「」位置に、ロックしてから、反時計回方向へ回すと、シートを開きます。

オンの方法：

- 1.シートを閉め、シート後部を下へ押せば、自動的にロックします。
- 2.シート後部を軽く上へ引いて、きちんとロックしているかどうかご確認ください。

※注意

- 貴重な物はラゲッジBOXには置かないでください。



ヘルメットのフック

駐車後、ヘルメットのフックの放置。

使用方法：

- 1.シートロックをオフにし、シートを上げて開けます。
- 2.ヘルメットのメタルバックルをフックに掛けてください。
- 3.シートを閉め、シートが自動的にロックします。

取り方：

使用方法をご参考に、シートを開いてヘルメットを取り出してください。

収納フック

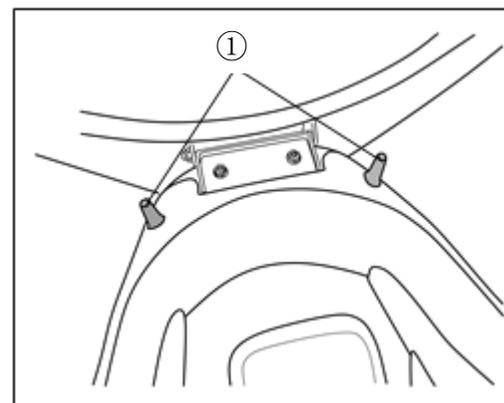
フックを使用する時は、収納のフック①を押してください。

フックの積載重量：3KG

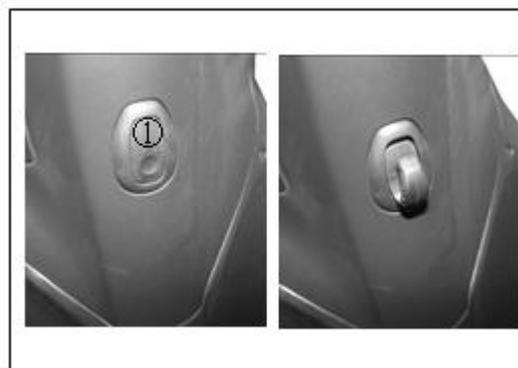
使用しない時には、フックを収納してください。

※注意

- 走行中に、車両の部品や塗装外観を損傷しないように、ヘルメットを車体にロックしないでください。



① ヘルメットのフック



起動ボタン

メインスイッチを「」位置にして、ハンドルをしっかりと握り、このボタンを押して、エンジンが運転し始め、エンジンをスタートします。

※注意

- エンジンが起動したら、すぐ起動ボタンから手を離してください。
- 毎度、起動ボタンの使用時間は4秒間内にお控えてください。再度の起動なら、間隔時間はせめて30秒間以上置いて下さい。バッテリーを保護するために。
- エンジンの運転中、起動ボタンをご使用しないでください。エンジンに不良の影響を与えます。
- 起動ボタンを使用する前に、ウインカーライトのスイッチをオフにしてください。



ライトスイッチ

この車両にはありません。

前灯の切り替えスイッチ

 …… ハイビームを選択したい場合に、この位置をご使用してください。

 …… 市内に運転する時、すれ違い時に相手の目線を影響しないように、ロービームをお使いください。

 …… ロービームで前の車を追い抜く時にPASSINGスイッチを断続的に押すと前照灯が点滅して、相手を注意します。



※注意

- 市内に運転する場合、状況に応じて切り替えスイッチを使用して下さい。

ホーンボタンを押す

メインスイッチが「」位置で、ホーンボタンを押すと鳴ります。

ウインカーのスイッチ

①右左折、進路変更する場合に、ウインカーライトをご使用してください。スイッチが切り替えれば、ウインカーライトがすぐ点滅します。

← :この位置は左折にご使用ください。

→ :この位置は右折にご使用ください。

②消灯時はウインカーライトボタンを押して下さい。

③ウインカーライトを使う時にメーターの方向指示灯も同時に点滅します。

※注意

- メインスイッチが「」位置はウインカーライト動作しません。
- 運転中に進路変更、右左折する場合に、事前にウインカーを示す習慣を身につけてください。操作終了したら、ウインカーライトを消すことを忘れないでください。



ステアリングロック

盗難防止のために駐車時はステアリングロックしてください。

ロックする方法：

ステアリングハンドルを左へ最後まで回転させ、メインスイッチの鍵

を押して反時計回し、「」位置にします。

解除方法：

鍵を「」位置へ、ロックは自動的にキャンセルします。

※注意

- 1.ロックした後に、ハンドルを軽く動かして、きちんとロックしたかどうかを確認します。
- 2.運転中は、メインスイッチの鍵を「」位置に回さないでください。
- 3.交通の邪魔にならない場所に駐車してください。



エンジンを起動する方法

1. 起動前に、まずオイルとガソリンの有無をチェックしてください。
2. エンジンを起動する場合は、メインスタンドをかけて下さい。



3. リヤブレーキレバーを握ります

車両が起動したら、急発進しないように、必ず後輪をロックしてください。

※ 注意

- エンジンが起動して発進する前は、後ろのブレーキレバーはフルブレーキ状態にしてください。
- 後ろブレーキの調整が正しくないと、後輪をブレーキロックすることができなくて、事故の原因となります。



4. メインスイッチ オン

メインスイッチを「」位置に回してください。

5. エンジンの起動

- ①アクセルを回転する必要がなく、ただ起動ボタンを押せば、エンジンは起動できます。
- ②エンジンが冷間から起動する場合、短い時間で（約2分間）暖めて、運転させることはエンジンに良い動作に良い事です。

※注意

- エンジンが起動したら、指はすぐボタンから離してください。
- エンジンの運転中に、起動ボタンを必ず押さないでください。エンジンの部品を壊れる可能性があります。
- エンジンが起動する時、バッテリーを正しく取り付けてください。バッテリーの電圧は異常があれば、エンジンの点検ライトは点灯したり点滅したりしますので、KYMCO販売店にて点検を行ってください。



正しい運転の方法について

1.メインスタンドを掛けてください。

操作説明：後ろのブレーキレバーをブレーキの位置に保持して、スクーターを前に押して、メインスタンドが自動的に外れます。

2.左側から車に跨って、きちんとした姿でシートに座ります。左脚は地面に接地して転倒を避けて下さい。



※注意

1. 運転前に、車が動き出さないように左手で後輪ブレーキレバーをしっかり握ります。
2. エンジンがスタートした後に、発進する前にアクセルを回してエンジンの回転数をアップする動作をしないでください

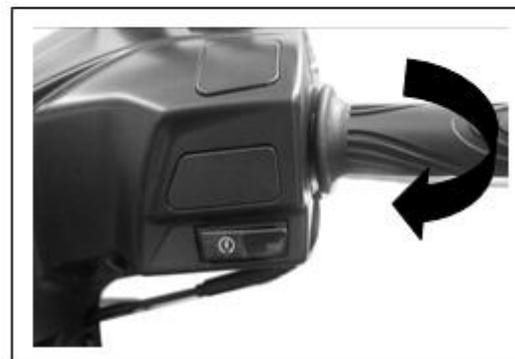
3.前後ブレーキレバーを緩めてください。



4.アクセルをゆっくりと回転すれば、スクーターは徐々に行走し始めます。

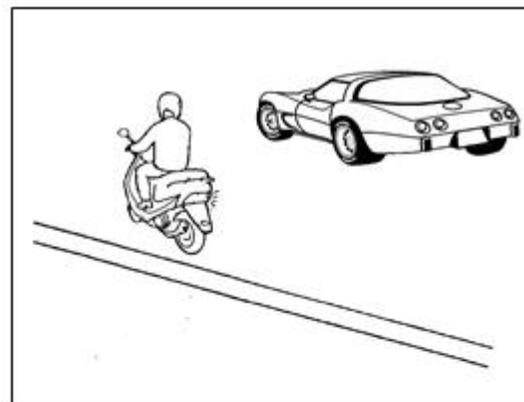
※注意

●前後のブレーキを解除した後、すぐ加速することは危険です。車が前へ急発進して、危険なことが起こるのを避けるためです。



正しい運転の方法について

5.出発する前に、ウインカーライトをまずオンにしてください。それから、後ろのほうは安全かどうかご確認してください。安全と確認したら、走り始めてください。



スピードの調節方法

1.スピードの調節はアクセルでコントロールします。

① 回す スピードが早くなります。

 ゆっくりと加速してください。

 起動したり、上り坂を登ったりする場合、アクセルをゆっくりと回してスピードを早くすれば、パワーがアップします。

② 戻す スピードは遅くなります。

 リセットする時は素早く操作してください。



①	加速
②	減速

優しい走行はスクーターの寿命を延ばします。

①新車の慣らし運転期間1500キロメートル (km) 内に、時速を60キロメートル/時間 (km/h) 以下にお控えてください。

(これが新車の慣らし運転期間)

②急加速を避けてください。

③無負荷の場合、エンジンが高速で回転することを避けてください。

ブレーキをかける時、前後ブレーキを同時にご使用ください。

①アクセルがオフ位置に戻った後に、前後ブレーキを同時に使い、ブレーキします。

②ブレーキをかける時、前後のブレーキをロースピードで引くというのは一番の方法です。

※注意

●前ブレーキあるいは後ブレーキを使用だけではスクーターが滑って転びやすいです。

●運転中には急ブレーキを避けてください。車体が滑って転びやすいです。



急にブレーキをかけることや、急に角を曲がることは危険です。

1.急ブレーキや、急いで角を曲がったりするとスクーターが滑り転ぶ原因となります。

非常に危険なことで、ご注意ください。

雨天には特別の注意を払って、ご運転ください。

1.雨天に、路面状況は晴天時と違って、ブレーキ距離は伸びます。スピードを遅くする一方、事前に、ブレーキをかけておくべきです。また制動開始も早めにしてください。

2.坂を下る時、アクセルをオフする位置に戻し、ブレーキをコントロールして、ゆっくりと運転してください。



駐車の方法

- 1.方向指示灯を点灯して置き、後ろ側の車両を注意して、ロースピードでスクーターをストップします。
- 2.アクセルをオフ、前後をブレーキしておき、後ろのブレーキ指示灯が点灯します、後ろ側から走ってくる車を注意します。

スクーターが完全に停止する時

方向指示灯のスイッチをオフにして、メインスイッチを「」位置に回します。

※注意

- 走行中にメインスイッチをオフして、鍵を鍵穴から抜けば、電気システムがオフになり、これが原因で事故が起こりやすいのです。必ずや駐車してから、鍵を抜いて下さい。



スクーターを停車する時

平坦な場所にメインスタンドをかけてください。

- ①交通を邪魔しない平坦な場所でメインスタンドをかけて下さい。平坦じゃない場所ではスクーターが倒れやすいです。
- ②左手はハンドルを握って、右手はシート下のサイドバーを引いてください。右足に力を入れて、メインスタンドを踏むと同時に、右手も力を使って、後ろへ引いてください。

スクーターが転倒した場合の対策

スクーターが倒れた後に、車体を立て直し、メインスイッチをオフして再度オンにし、リスタートすることができます。

※注意

- 盗難防止のため、駐車する時は必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチキーを抜きます。
- 車が傾いたら、危険を防止するため、傾いた後約5秒間、エンジンは自動的に停止します。



運転前の点検

- 1.運転前にスクーターの点検を行う習慣を身につけてください。
- 2.安全のために、またスクーターの故障と事故がないように、事前に、スクーターについて、必ず点検してください。
- 3.異常があれば、KYMCO販売店へスクーターをお持ち、点検と修理を受けてください。

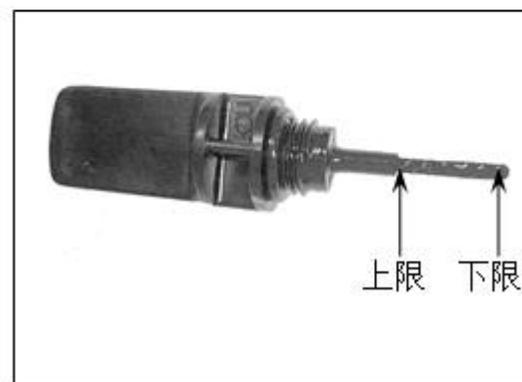
(一) オイルの点検と補充

- 1.オイル量の点検（エンジンスタートして、10分間後から実施します）

- ①メインスタンドを立たせ、計量尺を取り出し、綺麗に拭きます。
- ②オイル計量尺を直接に挿してください。（ネジ込まないで下さい）
- ③オイル計量尺を取り出し、オイルの容量をチェックします。オイルレベルが下限に接する場合、上限までオイルを補充してください。

推奨オイル規格: SAE : 5W/30、API : SL

- 違うブランドや、違うレベルのオイルも混用することはできません、ご注意ください。推奨規格のオイルをご使用ください。
- 運転の状況や、環境の影響で、オイルは劣化し、消耗したりします。いつも運転する前にオイルの量をチェックしてください。足りない場合は上限と下限の間に、オイルを補給してください。



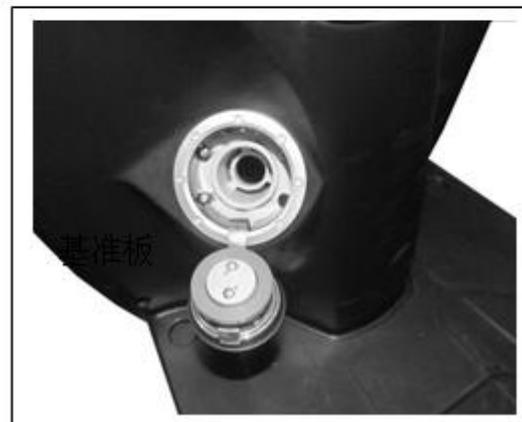
(二) ガソリンの点検と補充

- 1.ガソリンメーター量指示が最後の一角が点滅すると、有効の残量1.5Lの意味です。
- 2.早めに無鉛ガソリンを補充してください。
- 3.ガソリン・タンク・キャップの使い方：

- ①エンジンを停止します。
- ②メインスイッチを  位置から直接に  位置に回ればガソリンタンクのキャップを開きます。
- ③閉める時、キャップを閉じ方向に押せばロックします。
- ④エンジンを起動する時はメインスイッチを  位置に回して下さい。

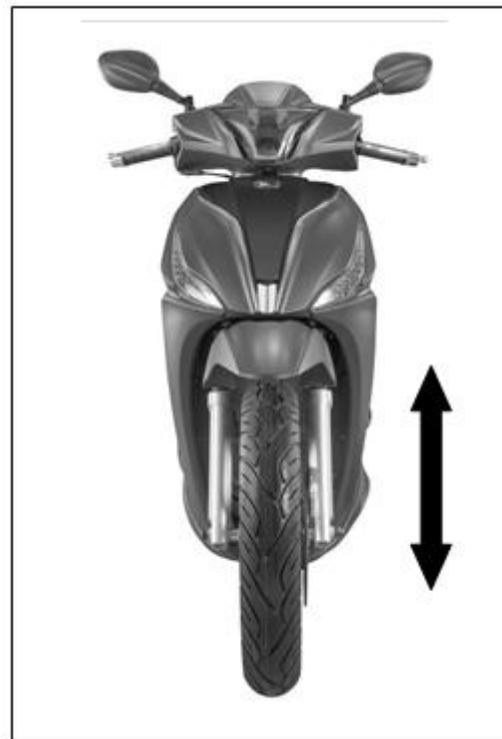
※注意

- ガソリンを補充するときに、基準線が上限で、オーバーしないことを注意してください。そうではないと、ガソリンが漏れやすくなります。
- エンジンの故障を避けるため、ガソリンを注ぐ時、他の添加物を加えないでください。
- ガソリンを補充するときに、必ずエンジンをオフすることをご注意してください。火気厳禁です。
- 本機種はEECシステムを採用していて、ガソリンの順調的な提供及び活性炭タンクの保護するため、オーバーフローすることは禁止です。



(三) ステアリングの点検

- 1.上、下、前、後、左、右の動きをチェックして、スムーズに動くかどうかご確認してください。
- 2.作動が硬くないかをご確認ください。
- 3.各ワイヤー類がステアリング操作により影響が出ていないかをご確認ください。
- 4.異常があれば、KYMCO販売店へスクーターをお持ち、点検と修理を受けてください。

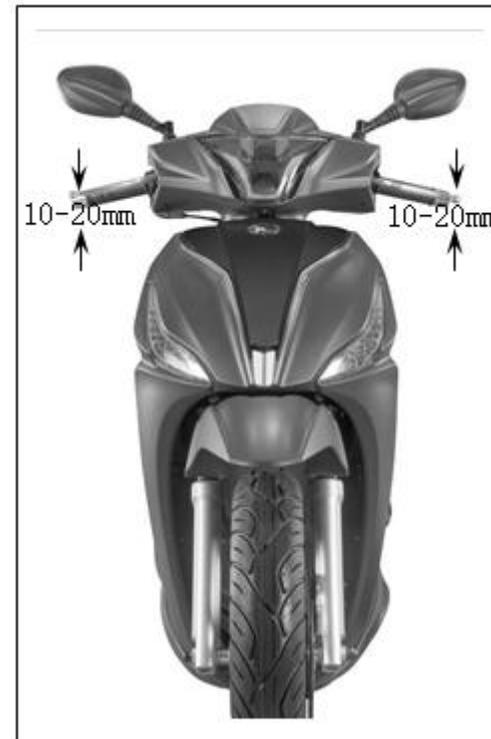


(四) ブレーキの点検

1. ブレーキレバーは適当な隙間が必要です。

通常の間隔: ①10~20mm

2. 「隙間」レバーを緩んでしてから、きつい感じするまで引くという距離のことです。



(五) ブレーキ液の点検

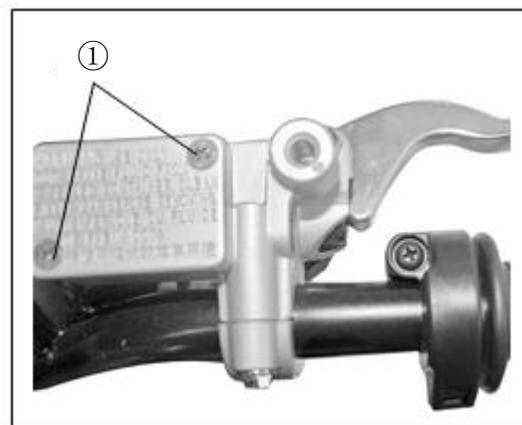
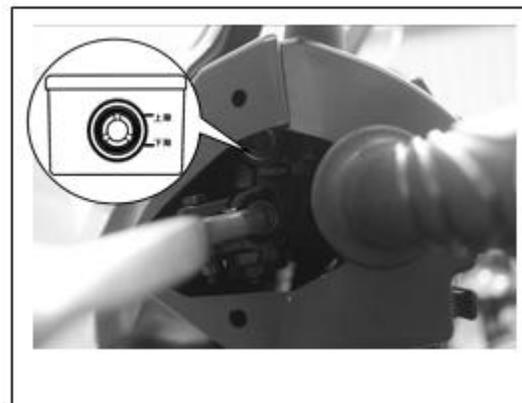
<ブレーキの液面>

1. グリップを前に向き、オイルタンクのディスクブレーキ液体をチェックして、容量は必ず上限と下限の間にある事。
2. 液体が下限位置の印に近づくと、ブレーキパッド、ディスクの摩耗をご確認ください。
3. ブレーキパッド、ディスクが摩耗され、あるいは規定限度の内に常に油漏れの現象があれば、KYMCO販売店へ点検をお受けください。

<ブレーキの液の補充>

1. レバー位置を元に戻し、ハンドルカバーを取り外してください。
2. まずは、タンクを水平にして、オイルタンクにある2本の固定用ネジを取って、オイルポンプのカバーを取り外してください。
3. ブレーキオイルDOT-4をオイルタンクに上限まで注ぎ、ネジをしっかり閉めてください。
4. ブレーキオイルの腐食性は強いので、ブレーキオイルがあふれて、部品を損壊しないように、取り外しと取り付ける時は、雑巾を注ぎ口の周囲を保護してください。

指定するブレーキオイルの番号：DOT-4



①	ねじ
---	----

(六)ブレーキの点検。

ちょっと走行して、ブレーキの効果を確認してください。



(七) ブレーキライトの点検

- 1.メインスイッチを「」位置に回してください。
- 2.前、後のブレーキレバーを引いて、ブレーキライトが点灯するかどうかご確認ください。
- 3.ライトのレンズをチェックしてください。汚れや破損などご確認ください。



(八) ウィンカーライトの点検

- 1.メインスイッチを「」位置に回りください。
- 2.ウィンカーライトのスイッチを操作して、前後左右の方向指示灯が点滅するかどうかご確認ください。
- 3.方向指示灯のレンズは汚いか、破損をご確認ください。



(九) 前後緩衝器の点検

- 1.レバーやシートに重量をかけてください。不連続的に下へ押すという動作をして、前、後の緩衝機能が良好かご確認ください。



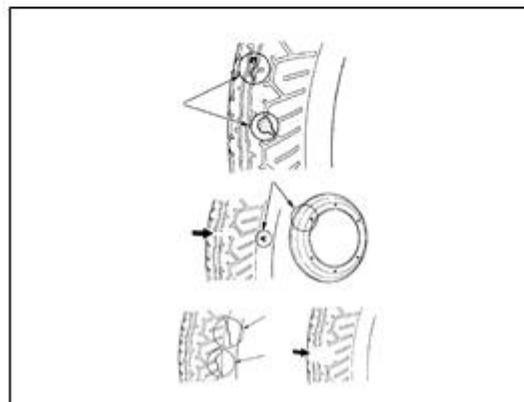
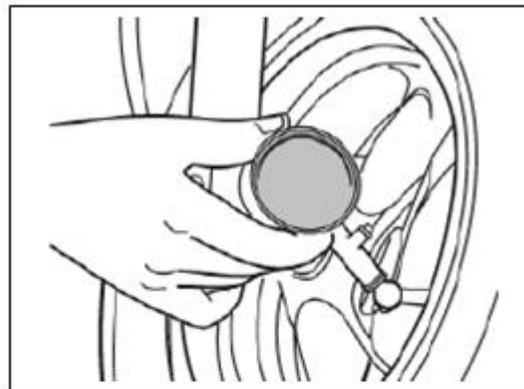
(十) タイヤの点検

1. タイヤが地面との接触状態を点検して、タイヤの気圧をご確認ください。
2. タイヤが地面に接触して、何か異常があれば、タイヤ用の圧力計を使い、タイヤ内部の圧力が異常かどうかご確認ください。
タイヤが冷間時、タイヤの圧力をご確認ください。

	一名乗車時	二名乗車時
前輪	1.75kgf/cm ²	1.75kgf/cm ²
後輪	2.0kgf/cm ²	2.25kgf/cm ²

3. タイヤの溝の内に金属の碎片や小石などはさみ込みがないかどうかをご確認ください。もしあれば、取り除いた後に運転してください。
4. タイヤの表面に亀裂、あるいはタイヤの溝の摩耗が限度を超える時はすぐ新しいタイヤに交換してください。

(写真の矢印をご参考してください)



(十一) スピードメーターの針は動くのか。

(十二) ホーンが鳴りますか。

メインスイッチを「」位置にホーンのボタンをお押してください。

(十三) バックミラーの角度は適当か。

シートに座り、スクーターの後方が確認できるか、汚れや損壊があるかをご確認してください。

(十四) ナンバーは汚れていないか。

ナンバーの損壊、取り付けをチェックしてください。

(十五) 排気管は正常か。

取付け、騒音が発生するか、排気管をご確認してください。

(十六) 過去に起こった他の異常現象は、まだあるのか

1.安全また快く運転するために、必ずスクーターに定期メンテナンスを受けてください。

2.KYMCO販売店にて点検とメンテナンス作業を行ってください。

3.定期点検の期間及び点検の項目は”定期メンテナンス表”をご確認ください。

4.長時間不使用の場合、スクーターは必ず点検をお受けください。

※注意

●初回点検

1.納車後一ヶ月内にあるいは300キロメートル (km) 距離を走行した後に、必ず点検やメンテナンスを受けてください。

定期メンテナンス表

安全維持性能を延長し、スクーターの寿命を延ばすため、汚染排出を減少するために、定期点検とメンテナンスをきちんと行ってください。

排出システムと定期的メンテナンス表

I : 点検、必要があれば、潤滑したり、補充、修正、交換したりします。 A : 調整 C : 清掃 R : 交換 T : 締付 M : 修理、メンテナンス D : 診断器の点検

点検の項目	走行距離(km)	300	1000	2000	3000	4000	5000	6000	7000	8000	9000	10000	11000	12000	13000	14000	15000	備考
潤滑システム	エンジンのオイル	R		R		R		R		R		R		R		R		I : 点検
	オイルのフィルター	C		C		C		C		C		C		C		C		A : 調整
	ギヤ油	R			R			R			R			R				C : 清掃
燃料供給システム	燃油ポンプ/燃油ポンプのフィルター			I/C			I/C					I/C					I/C	R : 交換
	インジェクターケーブル			I			I					I					I	T : 締付
エア供給システム	空気のフィルター			C			R		C			R		C			R	M : 修理、メンテナンス
	活性炭のタンク			I			I					I					I	D : 診断器の点検
	CVT 伝送/スポンジのフィルター			C			R		C			R		C			R	
	PCV 蒸発のコントロールパブル			I			I					I					I	
	関係ある空気の流通路をコントロールする			I			I					I					I	KYMCO 販売店へ行って、修理、メンテナンス、診断器の点検などを標準の 手順に従って行ってください。
駆動システム	触媒コンバーター			I			I					I					I	走行中や点検中、オイルを必要があれば、 補充、調整やあるいは交換して下さい。
	凸輪のチェーン			I			I					I					I	2000km ごとにインジェクションノズル清 浄剤をガソリンタンクに入れてください (容量は指示をご参考してください)
	伝送のチェーン																	
	駆動ベルト			I			I			M		I			M		I	
点火システム	パブルクリアランス			I			I					I					I	
	点火プラグ				I		I			I		R		I			I	
エンジン管理システム	点火路線						I					I					I	
	スロットルボディ						M/I					M/I					M/I	
	燃油のノズル			D/M			D/M		D/M			C		D/M			D/M	
	アイドリング空気バイパス弁						D/M					D/M					D/M	
	エンジンの温度センサー			D			D		D			D		D			D	
	吸入圧力センサー			D			D		D			D		D			D	
	回転センサー			D			D		D			D		D			D	
	イグニッション・コイル			D			D		D			D		D			D	
	バッテリー			D			D		D			D		D			D	
	シャシボルト	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T
他	ブレーキシステム	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	M	I	I	I	I	I	
	ブレーキパイプ、ワイヤー	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	

(2)不定期メンテナンス

項	目	現	象	及	び	処	理
点	火	シ	ス	テ	ム	連続性の点火異常、エンジンが熱すぎて、エンジンが停止することがあれば、メンテナンスや点検を行ってください。	
カ	ー	ボ	ン	の	除	10000-15000km にエンジンのパワーが大幅に低下した場合、排気システム、シリンダーヘッド、ピストンヘッドに詰まったカーボンを取り除いてください。	
伝	動	シ	ス	テ	ム	5000km 以内に、急に下がった場合、CVT システムについて、メンテナンスや点検を行い、必要であれば部品交換してください。	
ピ	ス	ト	ン			1000km 内に以前は厳しく使すぎたれば、ピストン、ピトリングとシリンダー・ブロックの磨損や焼き付きを招くおそれがありますから、清掃するか、ボーリング、ホーニングあるいは新品で替えてください。	
燃	料	の	ノ	ズ	ル	1000km ごとに、あるいは長時間放置して未使用する場合、ノズルに詰まったカーボンとコロイド物を清掃してください。	

オイルの交換

〈交換の時期〉

1.新車は走行距離が300キロメートル (km) 時にオイルを交換してください。その後は、1000キロメートル (km) ごとにオイル量を点検して、2000キロメートル (km) ごとに交換してください。

2.オイルの容量：全容量：0.9L 交換容量：0.8 L

〈交換の方法〉

1.オイルの計量尺を取り除いてください①

オイルを排出するネジ②を落として、オイルを全部流してください。

★ エンジンが暖間時に交換すると使用したオイルは流しやすいです。

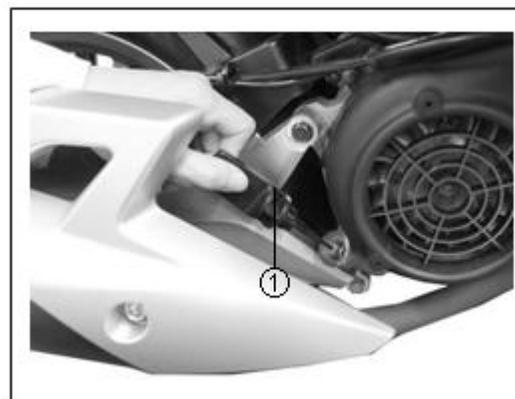
2.排出ネジを綺麗にして締付けしてください。

3.新しいオイルを注ぎ、量は0.8Lにお控えてください。

★オイルの計量尺を使い締付けしないで、オイル量をご確認ください。

4.オイル注入後、キャップは必ずしっかり取付けてください。

5.エンジンが回転し、暖かくなれば、10~20秒を停止して、再びとオイル量をご確認してください。



※注意

- 初めてのメンテナンスについて、300 k m 走行後オイルを交換してください。それから、1000 k m ごとオイルを点検してください。2000 k m ごとオイルを交換してください。

※注意

- 1.規格はSAE：5W/30 もしくはAPI：SLを使用して下さい。
- 2.下記の条件でお使いいただければ、オイルがより劣化しやすいので、早期に交換してください。
 - * 常に小石の路面を走行する。
 - * 常に短距離で走行する。
 - * 空回りの時間が長すぎる場合。
 - * 寒い環境でのご使用。
- 3.オイルの補充について、オイルの量は必ず計量尺上限の印を超えないでください。
- 4.エンジンがオイルを交換するときに、やけどをしないように注意してください。

オイル交換する注意事項

- 1.オイルが過量しても少な過ぎても、エンジンの性能に影響があります。
- 2.オイル過量時の影響：
エンジンを起動するときに回転する抵抗力が増加し出力のパワーを下げ油温が上がるのが早くなり、オイルが早めに劣化することになります。
- 3.オイル過少時の影響：
エンジンが運転するとき摩擦部位はオイルの供給量は少なくなり、部品が摩擦しすぎて焼き付くことが起こります。
- 4.エンジンの故障を避けるためにブランド異なるオイルや異なる等級のオイルを混用しないでください。
- 5.市場からお買い上げいただいた添加剤と混用すれば、油性を劣化させる場合があります。潤滑性能に影響あり、エンジンの使用寿命を短縮します。
- 6.オイルメーカーが製造した規定オイルをご使用頂いてください。勝手に使用ブランド以外のオイルを添加する原因で、発生する不良に対して、弊社は一切保証負担しかねます。

ギヤー油

〈交換の時期〉

1.初回メンテナンスのため300km後、ギヤー油を取り変えてください。以後は路面状況により、3000kmごとに交換します。

2.お勧めするギヤー油

SAE90#規格のオイル。

3.ギヤー油の容量: (エンジンのカバーの表示をご参考ください)

全容量 : 0.12L 交換容量 : 0.11L

〈交換の方法〉

1.平坦なところでスタンドをかけてください。

2.オイルを排出するボルト①及びオイルの注ぎボルト②を外す

3.エンジンがやや暖かくなった後に実施してください、ギヤー油が流し安いです。

4.オイルの排出ボルトを綺麗にしてから、しっかりと締付けしてください。

5.ギヤー油の注ぎ口からギヤーオイルをゆっくり注いで、注ぎ口切に入れてください。

6.ギヤー油の給油を完了した後、ボルトはしっかりと締付けすることをご確認してください。油漏れを防ぎます。



※注意

●常に雨天運転や、長時間運転したり、超負荷運転したりする場合にはギヤー油を短い期間に交換してください。

点火プラグの点検

1.点火プラグが汚れしやすいので、隙間が大きければ異常燃焼が発生します。

〈清掃する方法〉

1.点火プラグ清掃器を使ってください。

2.清掃器がなければ、ワイヤーブラシーをご使用頂いてください。

〈調整〉

1.サイドの電極隙間について正常は0.6~0.7mm

〈指定の点火プラグ〉 CR8E

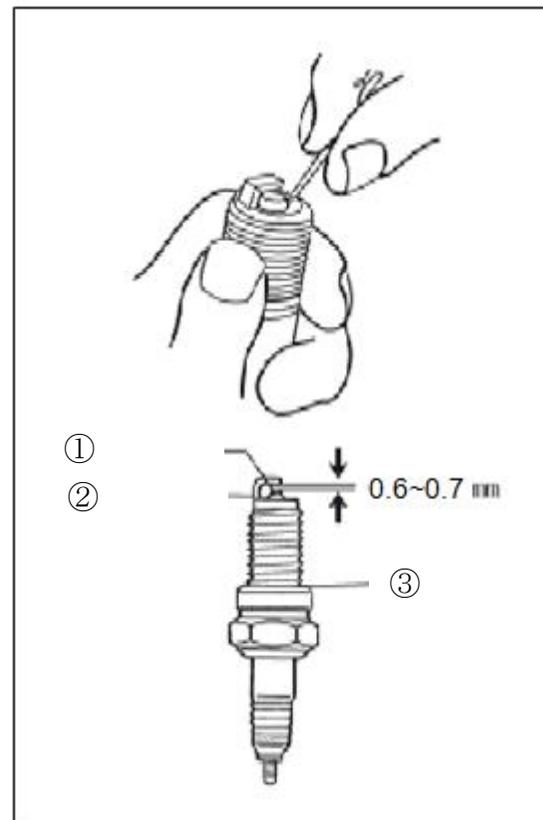
1.指定以外の点火プラグはご使用しないでください。

2.高速運転あるいは過重積載運転の時に、高熱値の点火プラグを変えて、お使いください。

※注意

●エンジンが停止してから、点火プラグを交換する時に、温度が高いため、やけど等にご注意ください

●点火プラグを取り付ける時に、まずは点火プラグを指でロックしてから、プラグレンチでしっかり締付けしてください。



①	中心電極
②	サイド電極
③	熱輪

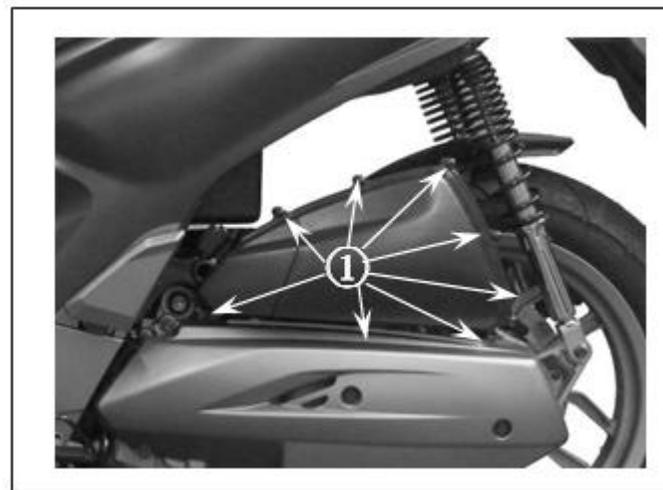
エアフィルターの交換方法

手順

1. エアフィルターを固定する8本のネジを外して、エアフィルターを外してください。①。
2. エアフィルターを固定する6本のネジを外して、エアフィルターを取ってください。
3. 清掃、あるいは交換を行います。
4. 取り外しの反手順に従い、取付けてください。

※注意

- 1000キロメートル(km)の距離に達したごとに、エアクリーナーBOXのオイル・パイプ内の積まったオイルを綺麗にしてください。
- 常に極めて悪い天気（寒くて、暑くて、雨、雪.....）の場合で走る時、必ずエアクリーナーBOXのオイル・パイプを定期的に点検してください
- 4000キロメートル(km)ごとに、エアフィルターを清掃、交換してください。（路面にホコリが多い場合、エンジンの性能の良好を維持するために、事前に交換しておきください。）
- エアフィルターを入れた後に、カバーを取り付けしてください。エアフィルターが無いとホコリが入り、エンジンが摩耗され、使用寿命を短縮させます。



エアフィルターの点検/清掃

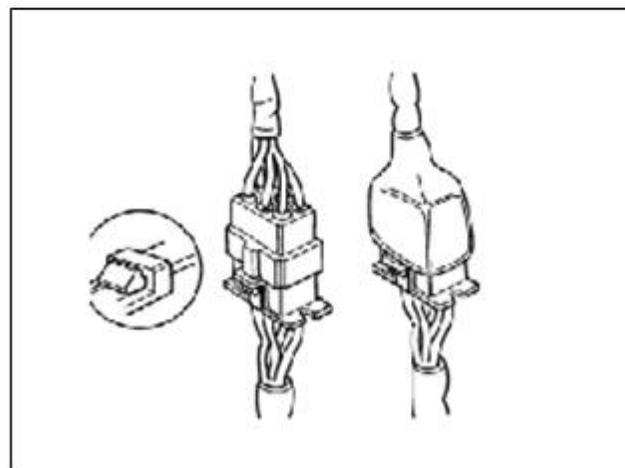
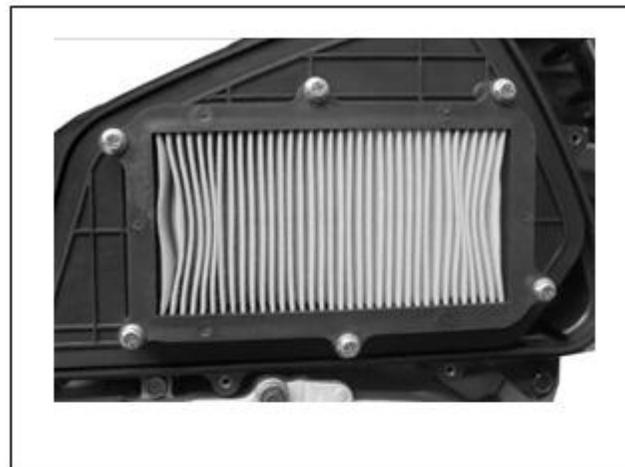
- 1.エアフィルターを取り外してください。
- 2.エアフィルターを点検して、微かな汚れは清掃できますが、汚れがひどい場合には交換してください。
- 3.ホコリがつけた面を下に向け、軽く叩いて、ホコリを落とさせます。

※注意

- 溶剤や油類などを使って、エアフィルターを清掃しないでください。
- 車を洗う時、エンジンの起動不良を避けるために、エアフィルターに浸水させないでください。

配線類のゴムカバー

- 1.配線類の内線は外部のゴムカバーで保護します。常に正しい部位に取り付いているかご確認ください。
- 2.スクーターを洗う前に、直接に水をゴムカバーに向けて流したり、ブラシでこすったりしないでください。汚れやホコリは濡れた布で綺麗に拭いてください。



ヒューズの交換

- 1.ヒューズをチェックあるいは取替する前に、まずメインスイッチを「」位置に回してください。短路の予防に。
- 2.規格以外のヒューズを使わないでください。メーカーは責任を負いたしません。
- 3.規格以外のヒューズを使えば、配線は温度が高くなり、壊れる恐れがあります。
- 4.電気部品を交換する時には純正部品をご使用ください。
- 5.規定部品以外を使用すると、ヒューズは切れやすく、バッテリーの電荷もバランスが取れなくなります。
- 6.ヒューズが溶断したら再びの溶断を防ぐ為に原因を究明してから、新品を交換してください。
- 7.原因不明の場合、**KYMCO**販売店にて点検を行ってください。
- 8.スクーターを洗車する時に、カバーの周囲はなるべく高圧洗浄で洗い流すことを避けてください。



外す時

1. ヒューズの上カバーを開き、ヒューズを取り出してください。
2. ヒューズは接触不良したら、発熱しやすく、故障しやすいです。

ヒューズの規格：**15A** 2個
10A 2個
25A 1個

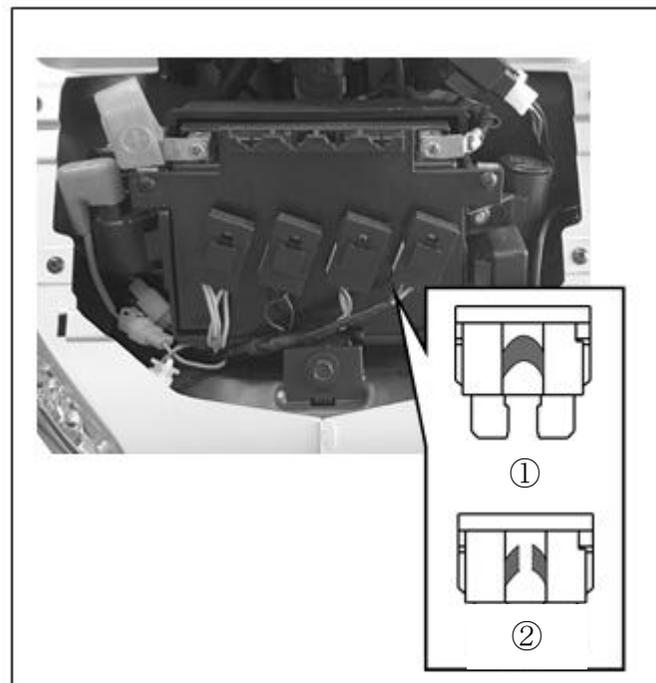
取り付ける場合

1. ヒューズを端子に入れて、上蓋を下へ向いて押し、しっかり取り付けしてください。
2. 取り付けたら、ヒューズを引いて確認してください。ゆとりがあれば、線路が発熱ことを起こして、故障になりやすいので、ご注意ください。



警告

配線の負荷がオーバーしてラインが壊れるのを避けるために、規定規格のヒューズをお使いください。



①	良
②	不良

バッテリーの点検

- 1.本機種はMF維持不要式バッテリーを採用しております。
- 2.バッテリー液は点検したり補充したりする必要がありません。

バッテリーの端子

- 1.フロントカバー2本の固定用ネジ①を取り落として、プラスチックファスナー②1個をとってから、フロントカバーを取り除きます。
- 2.バッテリーの端子を清掃する時はまずバッテリーカバーのネジ2本を取り外して、それから、バッテリーカバーを外してください。
- 3.バッテリーの端子に腐蝕が発生すれば、バッテリーを取り出し、清掃してください。
- 4.清掃してから、バッテリーの端子頭部に薄いオイル一層あるいはワセリンを塗装して、その後バッテリーを入れてください。

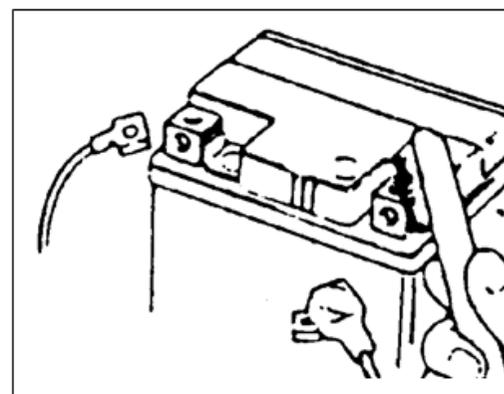
バッテリーの規格：12V8AH

※注意

- バッテリーの交換は必ず火元から遠い場所で行ってください。
- 交換の時に、必ずメインスイッチをオフしておきます。まずは陰極を取り、まず陽極を付けてから、陰極を付けるルールです。
- 端子のネジが緩かったら、しっかりと締付けてください。



①	固定用ネジ
②	プラスチックのファスナー

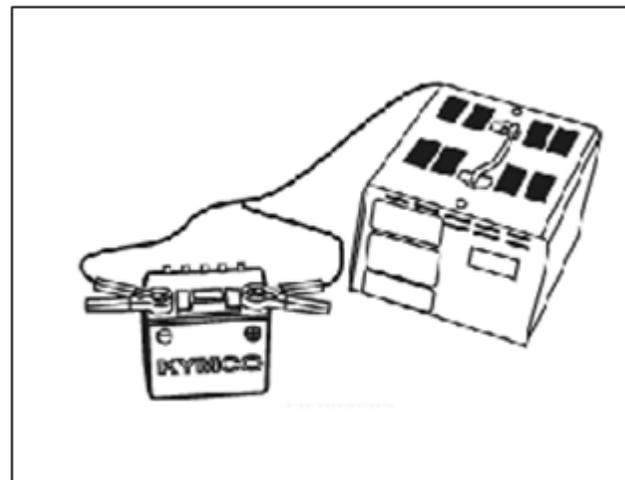


メンテナンスの注意事項

- 1密閉式のバッテリーの電解液のカバー絶対に分解しないでください。
- 2.バッテリーは燃えやすい気体を生じますので、取り付ける時は火元をさけることはご注意ください。
- 3.バッテリーの液体は希硫酸で、目を傷つけますので、万が一、うっかりと皮膚に落ちたら、直ちに清水で洗い流すべきです。その後、病院へ行って診療を受けてください。
- 4.充電する時は電極の接続にご注意ください。
- 5.長期に使わない時、バッテリーは放電します。バッテリー上がりを防止するために完全に充電してから、涼しくて通風の場所に保存してください。車体に残す場合には、負極を外します。
- 6.一ヶ月以上使わない場合、バッテリーの良好を維持するために月一回充電してください。
- 7.詳しいことについて、KYMCO販売店へご相談ください。

故障した場合

走行中にもし故障が発生すれば、KYMCO販売店にて点検を行ってください。



車体各部の潤滑について

目視でチェックして、車体の各部の潤滑部は十分かどうかご確認ください。

故障した場合

運転中に故障した場合、KYMCO販売店で点検を行ってください。

エンジンが起動できない場合

運転中に停止すれば、下記の項目に従いチェックしてください。

1. 燃料は有るのか。

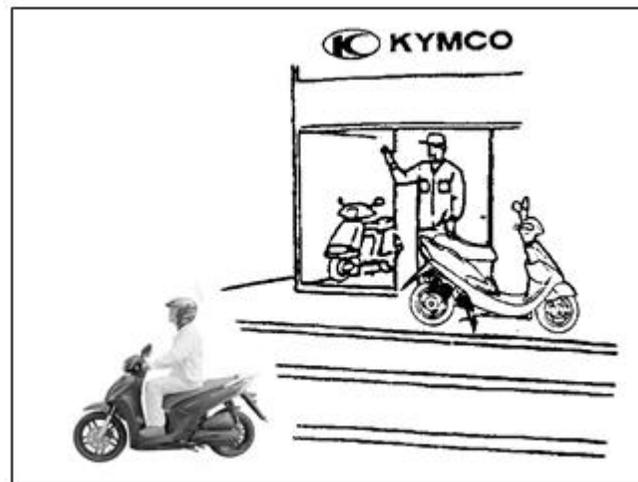
燃料計最後の一角に近づく前に、無鉛ガソリンを補充してください。

2. エンジンの起動方法は正しいかどうかご確認ください。

3. バッテリーの電圧は十分かどうか。

4. エンジンの点検灯は点灯しているかどうか。

5. 他の部品に問題があるかどうか。



諸元表

内容	Tersely S 125i	Tersely S 150i
エンジンのタイプ	4ストローク 強制空冷 単気筒	4ストローク 強制空冷 単気筒
排気量	124.8cc	149.7cc
ボア×ストローク	φ54mm*54.5mm	φ59mm*54.8mm
圧縮比	10.25	10.9
最大出力	8.3kw/8500rpm	10.1kw/8500rpm
最大トルク	10.4N.m/7000rpm	12.4N.m/7000rpm
アイドリング	1800±100rpm	1800±100rpm
変速方式	CVT	CVT
クラッチ	乾式遠心式	乾式遠心式
点火方式	ECU	ECU
起動方式	セルモーター	セルモーター
点火プラグ	NGK-CR8E	NGK-CR8E
潤滑の方式	圧送飛沫併用式潤滑	圧送飛沫併用式潤滑

内容	Tersely S 125i	Tersely S 150i
長×幅×高	2085*700*1170mm	2085*700*1170mm
車両重量	130kg	130kg
ホイールベース	1390mm	1390mm
タイヤ	前：100/80-16 後：120/80-14	前：100/80-16 後：120/80-14
使用燃料	無鉛ガソリン	無鉛ガソリン
オイル全容量	0.9L	0.9L
燃料タンク容量	6.5L±0.5L	6.5L±0.5L
オイル規格	SAE5W-30 /API SL	SAE5W-30 /API SL
バッテリー	12V8AH	12V8AH
ヒューズ	25A*1/15A*2/10A*2	25A*1/15A*2/10A*2
最高速度	90km/h	95km/h
ブレーキ	ABS前後ディスクブレーキ	ABS前後ディスクブレーキ
最低地上高	130mm	130mm